

昭和60年6月1日

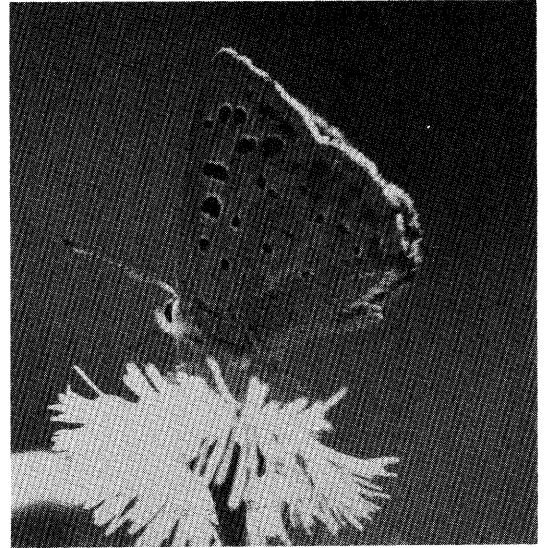
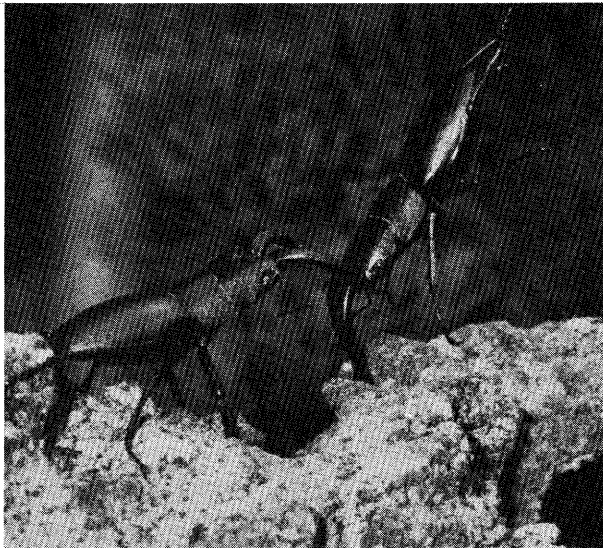
# 郷土あかし

郷土館だより  
第10号

五日市町立  
発行 五日市町郷土館 東京都西多摩郡五日市町五日市920-1 電話 0425・96・4069 有線4607

## 五日市の昆虫

昆虫研究家 宮野浩二



左クワガタ 右シジミチョウ

~~~~~ チョウ ~~~~~

### はじめに

五日市町は秋川溪谷の表玄関として自然に恵まれたところではあります。

まわりを山に囲まれ、山には最近植林によって、スギ・ヒノキが多くなってきてはいますが、あちこちにコナラを中心とした雑木林が残されています。

こうした中であって動植物の種類は多く、都心からの距離も近いため、愛好家にとっては一度はこの地を訪れてみたい恰好の場です。今回はこのうち身近な昆虫類について気のついたことを書いてみましょう。

昆虫に興味を持つ人なら、まず手を出したくなるのがチョウの収集でしょう。小さい体に色あざやかな翅<sup>はね</sup>を持ち、優雅に飛びかうさまは、自然の作った傑作といえましょう。

五日市には、80種ばかりのチョウが見られます。越冬したチョウは別として、春一番に出現するチョウは、コツバメです。

コツバメはシジミチョウ科の小さな地味なチョウで、まだ緑の草が生える前の3月初旬に、山裾の日当たりのいいところに現われます。昆虫に関心のある人なら、すぐそれと気がつきますが、普通は目の前にいても見過ごしてしまいます。人が近づくと、パッと舞い上り、しばらく

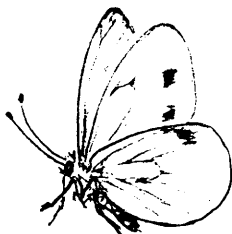
くするとまた同じところに帰ってきたりします。

2番目に現われるチョウは、**ミヤマセセリ**です。やはり山道で普通に見られます。

3月下旬をすぎると、**モンシロチョウ**をはじめ、次々

といろいろなチョウが現われてきます。

“アッ！ モンシロチョウがいた。”などと白いチョウを見るとよく耳にします。しかしモンシロチョウでない場合があります。



モンシロチョウ

モンシロチョウとよく間違われるチョウは**スジグロチョウ**です。大きさも、色もほとんど同じようですが、スジグロチョウは名前のおり翅のスジが黒くなっています。また、モンシロチョウがキャベツ畑にいるのに対し、スジグロチョウは山ぎわに多く見られます。

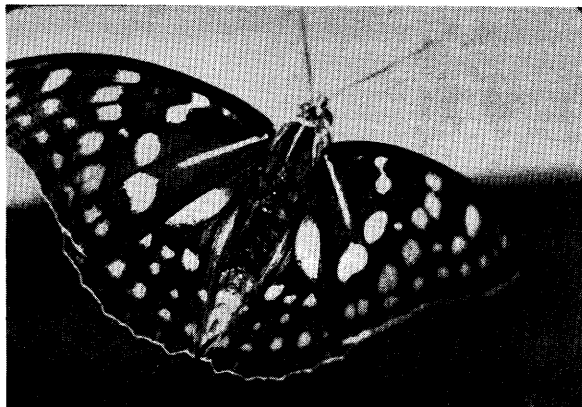
年1回、4月に発生する**ツマキチョウ**もモンシロチョウによく間違われます。手にとってみると翅の先が尖がっているのですぐ別種であることがわかります。

5月ごろ、ハルジオンが咲いている野原に、モンシロチョウよりは少し大型で、ふわりふわりと飛んでくる弱々しい感じの翅のすきとおったチョウがいます。これは**ウスバシロチョウ**で、アゲハチョウの仲間です。

ツツジが咲くころは、アゲハチョウの全盛期です。**ナミアゲハ**、**キアゲハ**、**クロアゲハ**、**カラスアゲハ**、**オナガアゲハ**が多く、たまに**モンキアゲハ**も飛んできます。このあたりでは、黒いアゲハチョウのことを**カマクラチョウ**と呼んでいます。

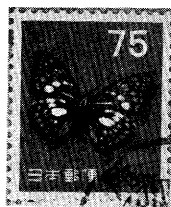
花にくるチョウの他に、6月上旬クヌギやコナラの梢に、夕方になるとチラチラと舞い乱れるチョウがいます。**アカシジミ**、**ウラナミアカシジミ**という小さなチョウです。夕日をあびて、ダイダイ色の翅が光り、きれいです。これもチョウに興味があれば、決して見ることがない光景です。

夏が近づくと、**オオムラサキ**、**ゴマダラチョウ**、**スミナガシ**などの大型のタテハチョウが樹液に集ってきます。なかでも、**オオムラサキ**は日本の国蝶に指定され、以前75円の切手にデザインされた美しいチョウです。チョウの王様ともいうべき風格をそなえており、中型の鳥を追いかけるなど気の強いところもあります。



オオムラサキ

夏はやはりチョウの種類、数とも一番多いようです。そして、秋、アズキ畑には**ウラナシジミ**が沢山飛んできます。また、柿が熟すと、その甘い液を求め**キタテハ**、**アカタテハ**、**ウラギンシジミ**などが集ってきます。



## ~~~~~ ガ ~~~~~

分類上では、チョウと同じ<sup>りんしるい</sup>鱗翅類に入っていますが、チョウと違って知られている昆虫の一つです。これは、チョウが昼間活動するのに対し、ガは夜間活動するためかも知れません。

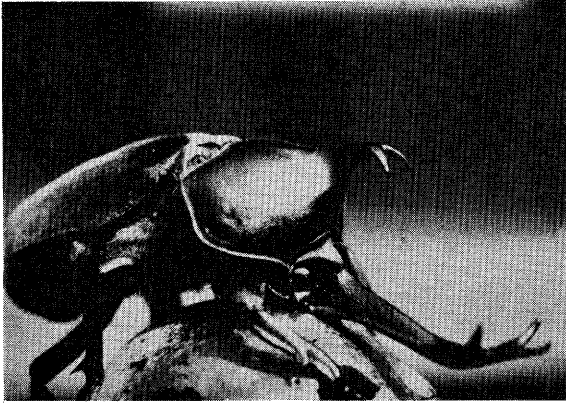
ガを採集するには夏のむし暑い夜、外燈の下に行けばいくらでもとることができます。ガは種類が多く、非常に興味深い昆虫です。一通り採集すると、なかなか種類がふえなくなります。それは、ガの種類によって飛んでくる時間がきめられているからです。時間をずらして根気よく採集することです。

ある晩、外燈の下で一生懸命ガを採集していたら、パトカーが止り、警察官に職務質問されたことがありました。こんなことはガを採集している人なら、たいてい一度や二度は経験あることと思います。お陰で警察官と仲よくなり、採集に協力してもらったことなどあります。

大型のガでは早春、**イボタガ**がみられます。初夏の**シンジュサン**はこのあたりで最大のガです。最近しばらくみつからなくなっていました。秋には**ウスタビガ**や**ヤママユ**などが見られます。翅をとじたところが、**アケビ**の葉にそっくりな**アケビコノハ**。また、バレーの白鳥の湖に出てくるプリマを想わせるような**オオミズアオ**。小型のガにも色のきれいなものや形の面白いものなど沢山います。

こ ちゅう  
甲 虫

夏の雑木林の樹液には、きまって多くの昆虫が集まってきます。カブトムシ、クワガタ、カナブンなどの甲虫類、オオムラサキ、ルリタテハなどのチョウ、スズメバチやガなど。



カブトムシ

子供の頃、虫の集まる木を沢山知っていてカブトムシやクワガタをいつもとってくるのできる者は人気者でした。カブトムシは子供達のペットで、大きなミヤマクワガタやカブトムシを持っていると英雄になったような気がしました。今でも、子供達にはカブトムシ、クワガタは人気があります。

宝石のエメラルドを思わせるように光沢のあるアオカナブンがいます。美しいといえば、タマムシが代表でしょう。ケヤキ、サクラ、カシ、エノキなどの材を食いあらす害虫なのですが、七色に輝く翅は、国宝法隆寺の玉虫厨子に使われている由緒ある虫です。

また材を食べる害虫の代表はカミキリムシです。クリ林にはシロスジカミキリ、クワ畑にはキボシカミキリ、クワカミキリなどが見られます。雑木が切り倒されたり、沢山積んであったりすると、カミキリがよく見つかります。

木や草の葉を食べるハムシも非常に多くの種類があります。中でもヒルガオの葉を食べるジンガサハムシは、金色をしているので金虫などと呼んでいます。

夏の風物詩ホタルも、一時は少なくなりましたが、最近あちこちで良く見られるようになりました。

セ ミ

5月頃、松林の中でいち早く鳴き出すのがハルゼミです。丁度気候も良くなる頃で、ハルゼミの声をきくと

んびりねむくなってきます。松林で鳴くのでマツゼミとも呼んでいます。小さなゼミでどこに居るのかがすのが大変です。ハルゼミも最近、数が少なくなってきている昆虫の一つです。

次にニイニイゼミが鳴き出します。鳴き声がジーイーときこえるので、ジジイゼミとも呼んでいます。やがて夕方になると、涼しさをさそうようにヒグラシが鳴き出します。

夏は何といっても、アブラゼミ、ミンミンゼミです。夕方、土の中から出てきたセミコマは、夜のうちに羽化し、朝日を浴びて飛んで行きます。そして、昼間の暑さとはり合うばかりに鳴き続けます。

また、8月頃、ときどき高い木の梢の方で、シャーシャーと鳴いては、

いそがしく飛んでゆくセミがいます。これはクマゼミで、五日市では発生していないはずのゼミです。

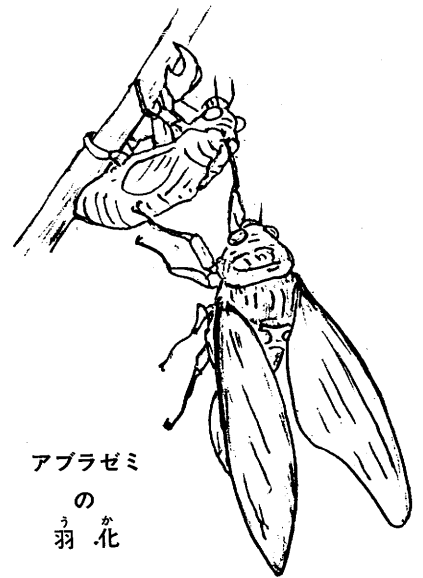
クマゼミは南の地方で生れ、この五日市にまで旅をしてきたものと思われます。

夏の終りをつけるセミにツクツクホウシがいます。楽しかった夏休みが終りに近づくと、きまって鳴き出します。“もう暑休みが終りか”とこのセミが鳴くと今でもいやな感じがします。

もう一つ忘れられそうなセミにチッチゼミがいます。五日市でも山の方で、9月頃チッチチッと鳴きます。このあたりにいるセミの中で最も小さいものです。そんなわけであまり知られていないのです。

その他の昆虫

水の中において小魚などを食べる昆虫で、形はタガメカメムシに似ています。大きさ6センチ位。10年ぐらい前までは、どこの池にもいたようですが、こ

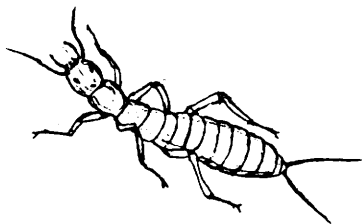


アブラゼミ  
の  
羽化

のところまったく見られなくなっています。夏の夜、外燈にも多数飛んできていました。車にひかれあちこちにその死骸を見たのは、もう一昔前の話です。

### ガロアムシ

ゴキブリとコオロギの中間に分類される。生きた化石として珍しい虫です。



山の石の下などにときどき見つけることができます。

### ムカシトンボ

これも生きた化石とされている珍しい虫で、4月下旬から5月に見られます。

### カマキリモドキ

翅を見るとトンボのようで、カマキリのような鎌を持った変わった虫です。外燈などに飛んできて、他の小さな虫を食べています。

### ツノトンボ

形などトンボにそっくりですが、普通のトンボにない大きな触角を持っています。

トンボの進化した形といわれています。

### アオマツムシ

鳴く虫で代表されるコオロギ、スズムシにかわって、最近急に増えている虫にアオマツムシがいます。樹の上で、リーリーと大きな声で鳴きます。明治年間に植木に卵がついて東京に入ってきた帰化昆虫で、原産は熱帯アジアのようです。五日市には、昭和51年8月に入ってきたばかりの新顔ですが、今ではいたるところにいる虫となりました。

### むすび

五日市の昆虫、気のつくまに書いてみました。昆虫にかぎらず、私たちのまわりにはまだまだ素晴らしい未知の世界が、沢山あります。

私たちは、こうした素晴らしい自然の中に住んでいて、興味を持つことで、その未知の世界に一つ一つ踏み込んでゆけるわけです。興味を持たなければ、そのまま見過ごしてしまいます。

明日、あなたは何を発見するのでしょうか。

注(1)頁の写真郷土館、(2)(3)(4)頁の写真と絵宮野浩二氏

## 五日市町の文化財写真展

＝郷土館で開催中＝

期限 8月27日まで

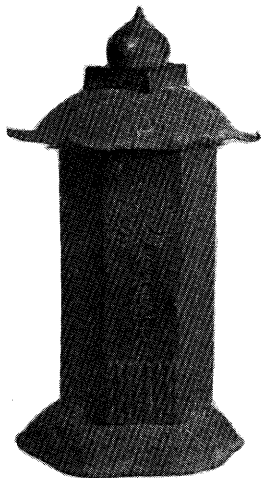
合併30周年記念行事の一環として、郷土館では町内にある国、都、町指定文化財の写真展を開催いたしております。

現在五日市町には48件もの指定文化財天然記念物がありますが、見たくても簡単に見られないものが多く、町民に親しいものとなっております。

今回、教育委員会で文化財写真集『五日市町の文化財』を発行した機会にその撮影写真中より約30点を選び展示しました。

伝統の町五日市にはこんな素晴らしい文化財があります。身近なところから町の歴史を知り、文化財への理解と愛情を深められるようおすすめします。

なお『五日市町の文化財』定価 1,000円も発売しております。



大悲願寺 六角宝幢式経筒



東町観音堂 阿弥陀如来像